

ひとり 敬亭山に坐す

李白

白

衆鳥高く飛び尽くし

孤雲独り去つて閑なり

相看て両つながら厭わざるは

只敬亭山有るのみ

【作者】李白(七〇一〜七六二年)、盛唐の詩人。杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しよく)の錦州彰明県(きんしゅうしょうめいけん)

青蓮郷(せいれんきょう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し四十二歳より四十四歳まで玄宗(げんそう)皇帝の側近にあり、のち再び各地を転々とし多くの詩をのこす。安祿山(あんろくざん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。病のため没す。年六十二歳。

【語釈】*敬亭山:安徽省宣城県の北にある山の名。町のすぐ郊外にあり東は宛溪(えんけい)に臨み南は城内を見下ろす景勝の地。

*衆鳥:多くの鳥。 *兩不厭:「兩」は李白と敬亭山。ともにあきることなく。

【通釈】たくさんの鳥も空高く飛んでいなくなつてしまい、ひとひらの雲も流れ去つて後はひっそりと閑(しず)かになった。

お互いが見つめあい、ともに見あきることが無いのは、ただ悠然とした敬亭山だけだ。